



同時給排 レンジフード 取付説明書

※裏面は型紙(原寸大)になっておりますのであわせてご利用ください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り付けを促すことが想定される内容を「警告」「注意」の2つに別記しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けを
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
発火・故障の原因になります

注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
発火・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をする
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなすこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実にこなすこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 作業は 2 人以上でおこなうこと
レンジフードは約 35kg の重さがあります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ-利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「流通工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣承認品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁の排気口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものも目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋中央で調理される場合は油煙が捕集されにくいため、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³ 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時(お手入れランプ)を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。
- 風量おまかせ運転(風量自動切替)機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
発火などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けを
漏電した場合、発火するおそれがあります

注意

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
発火・故障の原因になります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をする
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなすこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。 製品質量 35kg

■ 床張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

注意

- 土壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
- 2 別売部品の準備
排気工事に伴った別売部品の準備が事前に必要です。
- 3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※ 火災予防条例では、グリッドフィルター(ディスク)の下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。
- 4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V) コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

■ お願い
必ずアース工事(D 種設置工事)をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

各部のなまえ

ダクトカバー、吹き出し口、温度センサー、スイッチ、照明、リモコン・運動信号受信部、オイルガード、整流板、電源プラグ、左壁取付タイプ

製品寸法図

(単位: mm)

左壁取付タイプ、右壁取付タイプ、標準取付例、ダクトカバー取付位置、電源プラグ取付位置、ダクトカバー取付位置、給気口、排気口、ソフトテープ、コネクタ-、アルミテープ

付属品

- 座付ねじ(φ5.1×45) 10本
本体、本体取付枠およびダクトカバー吊り金具の取り付けに使用します。
- 化粧ねじ(M4×8) 2本
ダクトカバー内側スライド部の固定に使用します。
- トラスねじ(M4×10) 2本
ダクトカバーの取り付けに使用します。
- ソフトテープ 2本
給気口・排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使用します。
- 本体取付枠 1個
本体の取り付けに使用します。
- ダクトカバー 1個
ダクト取付部をカバーします。
- ダクトカバー吊り金具 2個
ダクトカバーの取り付けに使用します。

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

■ お願い
保護用のクッション材と固定テープはキズ、破損防止のため、「8. 固定テープの取付け」までは必ずおこなってください。(図 1-1)

● 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

● 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
発火などの原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けを
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
発火・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的な資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。(ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。)

また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図 6-1 参照)

2 φ150 のステンレスダクト、またはパイプフードをレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げてください。(コンクリート、タイル、土壁の場合) (図 2-1)

■ 上方給・排気の場合

■ 後方給・排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)

3. 給気用・排気用部品の準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
漏電や感電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

■ お願い
電源は専用のコンセント(2 極接地極付差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
● コネクターは電源コードの長さを通して、下部の斜線範囲内に設置してください。
● 必ずアース工事(D 種接地工事)をしてください。

■ 上方給・排気の場合

■ 後方給・排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなすこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実にこなすこと
落下によりけがをするおそれがあります

■ お願い
レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に落下することがあります。
● キッチンパネルの上部部をレンジフード下部壁面に内れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに積み込みむ材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面のすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体取付枠を取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本で本体取付枠を固定します。

3 本体を引っ掛けます。(図 4-3)
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(1)、本体背面の溝を本体取付枠に引っ掛けます(2)。

■ お願い
上方排気の場合はダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

5. ダクトと給気用・排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピングねじなどで給気口・排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。(図 5-1)

■ 上方給・排気の場合

ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこなってください。(図 5-2)

■ 後方給・排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)

1 給気口・排気口を取り付けます。(図 5-3)
「3. 給気用・排気用部品の準備」で組み立てた L 形ダクトを用意してください。

1) 本体上面の各差込部に L 形ダクトを取り付けます。
※ ダクトに給気口・排気口を差し込みながら取り付けしてください。
※ 給気口・排気口を取り付ける際は、取付位置を間違えないようご注意ください。

2) L 形ダクトの右側面を取付ねじと排気口押さえでそれぞれ固定します。
※ 「3. 給気用・排気用部品の準備」で準備したねじ・排気口押さえを使用してください。

3) 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。

2 信号線を接続します。(図 5-4)
本体から出ている 2P コネクタ-を排気口のソケットに、3P コネクタ-を給気口のソケットにそれぞれ接続します。

■ お願い
コネクタ-の接続は確実にこなしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は埃まみれようご注意ください。
● コネクタ-を挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。
● 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が怪しいことがあります。
給気口・排気口を取り付け直してください。

■ 給気口・排気口設置面の漏れ確認のお願い(図 5-5)
給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの給気口・排気口を接続しようとすると、給気口・排気口と給気口・排気口の設置面(フード面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。
漏れする場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏れ防止処置をおこなってください。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をこなさなくてはなりません
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
漏電や感電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

■ お願い
電源は専用のコンセント(2 極接地極付差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
● コネクターは電源コードの長さを通して、下部の斜線範囲内に設置してください。
● 必ずアース工事(D 種接地工事)をしてください。

■ 上方給・排気の場合

■ 後方給・排気の場合

ダクトカバー外側、または天井面の右側(図 6-2)斜線範囲内に設置

※ 電源コードは排気口および排気ダクトに接触しないように配線してください。

7. ダクトカバーの取り付け

1 取付位置を確認します。(図 7-1)
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。

2 ダクトカバー前部を付属品のトラスねじ(M4×10) 2本で本体に固定します。(図 7-4)

3 ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8) 2本でダクトカバー吊り金具に固定します。(図 7-5)

8. 試運転

1 電源プラグをコンセントに差し込み、ブレーカーを「入」にします。

2 電源スイッチを押して、レンジフードを運転させます。

3 運転音が正常に聞こえ、照明が点灯することを確認します。

4 運転をしばらく続け、異常な音や臭いがないことを確認します。

5 運転終了後、電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜きます。

9. 試運転

1 電源プラグをコンセントに差し込み、ブレーカーを「入」にします。

2 電源スイッチを押して、レンジフードを運転させます。

3 運転音が正常に聞こえ、照明が点灯することを確認します。

4 運転をしばらく続け、異常な音や臭いがないことを確認します。

5 運転終了後、電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜きます。

10. 取付完了

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的な資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。(ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。)

また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図 6-1 参照)

2 φ150 のステンレスダクト、またはパイプフードをレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げてください。(コンクリート、タイル、土壁の場合) (図 2-1)

■ 上方給・排気の場合

■ 後方給・排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)

11. 取付完了

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面のすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体取付枠を取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本で本体取付枠を固定します。

3 本体を引っ掛けます。(図 4-3)
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(1)、本体背面の溝を本体取付枠に引っ掛けます(2)。

■ お願い
上方排気の場合はダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

12. 取付完了

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面のすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体取付枠を取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本で本体取付枠を固定します。

3 本体を引っ掛けます。(図 4-3)
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(1)、本体背面の溝を本体取付枠に引っ掛けます(2)。

■ お願い
上方排気の場合はダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

取り付けかたは裏面に続きます。

